

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

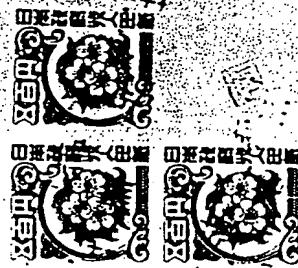
Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**



实用新案登録願

昭和47年6月21日

特許庁長官殿

発案の意願

可搬設壘式マッサージ機

発案者

实用新案登録出願人同上

郵便番号 537

住所 大阪市東成区中本五丁目1番5号

氏名

山下一郎

性別 男

年齢 51才

学年 一

記入欄
1) 明細書 1通
2) 図面 1通
3) 請書副本 1通

47 073764

明細書

1. 発案の名称

可搬設壘式マッサージ機

2. 實用新案登録請求の範囲

座板53と駆動輪51を介して、座椅子形式となる背凭れ内に、レール2とガイドとして適宜操作で上下させ、バランス材43と昇降桿4を、アイヤー車38、38'を介して連結し、上下動作を自由に調整停止できる昇降桿4を組込配備し、該昇降桿4の前面面側に、背凭れ内下部に配備するモーター24の始動にて主輪5を回転させ、前記昇降桿4に接着した回転伝達部材2介して、回転する振付16を装設すると共に、該振付16の前脱可能として振付附属部材45を装着、二又状振付の形成を可能とすることによる可搬設壘式マッサージ機。

3. 発案の詳細な説明
本発案は主として人体の背部と、また場合に依つては手足等をマッサージしてこらむので、且、仰坐が可能で、いつくかの場所で使用できるよう

方式(小旨)

考案されたものである。椅子は、へたりの形の大椅子で、ベット内に組込まれてから構造のものが多く、それは容積は大きく、設置面積も広く要求され、また持ち運びもし不便であり価格も高価であつた。そして、その構造の違和感も上下方向に比較的可能は構成を行つていか、左右即ち床面離脱整いつつは余り無理がはじきれない。

本考案は上記の欠点を除くべく考えられたもので、構造簡単で容積、重量も過大にならざるべく、併せて椅子も至便で、座椅子式設置構造を採用したモーター内蔵の駆動形式のため、外観上の特徴もよく、いかにも専門店での使用も可能な、コストも廉価かつ便利を有するものである。さらに木馬形状は、椅子脚の簡単な差替えが可能で構成に附いていため、株位並置状態も上下反対非常に簡単へ置きこむことができる構造となり得ることがわかるものである。

次に本考案の詳細と図面について説明すれば、1台背凭椅子を構成する木椅子、丁度内脚構成部

板の周囲を囲む板長の枠組を形成し、2台は該木椅子の内面側の上下方向に並行配置したU型ガイドレールであり、上下方向にひずみ下荷重の3箇所を構成して固定し、やはりU型状態に組立てる。4は界脚枠でガイドレール2と沿って界脚自在の配備となり、同U型ガイドレール2の板間にねじて位置すよりも、ここで該界脚枠4の構成を述べれば、この連続構成は複数打たれ、界脚枠4の中央を横走回振する主軸5と上下方向に擺動自在に回転運動される外設曳引のカバーームとU型ガイドレール2、7、7'が、界脚枠4の枠内左右に配されるのであるが、両ウーハムダマーク、7、7'の界脚枠4内で想定構成は兩手倒立であるため、その一方について以下説明することとする。

次に図に示された如くウーハムダマーク7はウーハムダームとU型ガイドレール4と底板4と底板8の界脚枠4内にて連結され、ナット3とナット9にて固定されるので、該界脚枠4は界脚枠4と構成する上下の前板10、後板11と板脚2、その

一方毛当板 2 の上に支特 3 が取付され、ラジアルペアリ：7-14、リストベアリ：7-15と並進するもので、且、その先端部は脚へ対して大仰角にして屈曲形成されている。被抹油 8 の前方部には被拭ノーツの回動自在取付孔 16 が、またその着脱が容易化できる簡単拆卸構造になつてゐる。即ち、被拭 16 の位置決め用抜打上カリン 17 が被拭溝に停止し、リストベアリ：7-18 を嵌装する状態にて、抹油 8 を通じて燃焼する止み栓 19 にて脱落を防止される。そして被拭 16 の取出先端部に対する概念は回動自在の寸法公差で、すな、被拭 16 の上部に此の栓 19 の頭部が削り凹設する如く凹所 20 を設け、被拭 20 の上面と此の栓 19 との頭部底面の間の隙間が与えられるにすれば、此栓 19 の燃焼時に於ても被拭 16 の回転防止は行はれないのでない。しかして、燃止め栓 19 の燃焼により被拭 16 の首端は燃焼を行ふことが出来る。リストベアリ：7-15、同 18 は、被拭 16 を人体背部へ適用する際き、若干

の抑圧が加えられて、その下押抵力を減少させる結果を有するものである。

さて、前記ウオーム 6 への回転伝達を下記斜糸は、並列 U 型がイドレル 2 の下部通孔へ、丸形 L 型のモータ一取付座 21 の一辺を止めネジ 22、ナット 23 にて取付し、(これらが金属板成形品の場合はスバル燃焼にて接着しても可) 该取付座 21 の他の一辺にモーター 24 の座 25 を載置、取付ねじ 26 にてモーター 24 のモーター 24 を固定する。モーター 27 と前記燃焼室側 5 の燃焼口筒状制御部 28 を介して油吹き嘴 29 にて吹出する。

この着止止撲脂状物質 28 は、燃焼室側 5 における外径(図示せず)等が行って正しい。しかして主轴 5 の断面形状は、円形の一方向面 5'、5" と形成するかたちで各部位を作成し、それと外側包材するウオーム 6 の内壁との形状とすら、旋削エンド 27 から連動される生糸 5 の断面形状より 5'、5" の作用により常に燃焼室側 5 へ向

9

カイ - ムの回数) 滑れ性を減少させる。
主翼とスラスター、ペア、スラスターを導入した。
尾翼杆 4 の前板 10、後板 11 の左右両側、即ち、[型カット] - [] 2 の内面に對向する [形側板 29 を下って昇降杆 4 は押さえられるものであるが、該 [] 形側板 29 の中央に取手 30 の一端が該部を挿入しナット 31 で止む。他端 30 は該曲げ木桿 1 の左側方外へとされ突張り出し、把元 32 を止木 33 にて把端 30 の先端へ固着する。いき地手 32 は把手孔の手元部分と上下逆の場合は把手 30 の上下す 33 へ必要の溝切れ 34 と [型カット] レール 2 の侧面へ、また溝空 35 が把手側方開孔溝 36 と木桿 1 の側面側へ

一方「L」型がイドレール2の上に上り出すが中央下部
に旋機3の下方K、横軸37、37'を横梁、山
川湖畔K-1-A-1平38、38'で回転自在K設置
し、その周囲に凹溝を設け71-A-39、39'が導
入開削する如く、横軸37、37'と71-A-39、39'

1

8、38'の横向き移動の停止は、1号走行板にて
41'、4'を車軸に停止にて行う。71' - 39'.
39'の一端は界74杆4の板板10、後板11を上
下へほく上板40、下板41の面側道所へ、運
搬されるものであるが、この界降板4は停止する該
ワイヤー一掛金42、42'及び引張板43を結合止
と介して開閉部の上蓋側へ回るE.1がそれを泥水等
巨難に対する位置へ、ランマ行43をスライド接着
され此ワイヤー取付金44、44'及びバーー39
.39'の他端を結合する之とE.1との配備する。か
くす3ニヒル、界74杆4とバランス板43と
がワイヤー-39、39'Kよりワイヤー車38、3
8'を介して連結されて、界降板の上下移動K
カリバランス板43はその反対方向へ上下するこ
とE.11、常に運搬のバランスを保ち操作棒が直
接界降板43とP5止し、界降板4と上下に48
側さす化Kに、把手32と操作手の開心の外の時
分は常に一定の位置を保つ。

8

20 kN 3止木ネジ 1/9 を取外し、柱材 1/6 の被覆（同種心材 1/0 の既存偏心式光端）は、柱材附屬部 4/5 を接着表面 1/5 と付着してから、心材が切れる。接着部材 1/6 と柱材 1/6 の接着面には、柱材 1/6 の外と同心に同じ方向へ、壁の偏正位置方向位置 K 部 4/6、L 部 4/6 を孔設じ、L 型附屬柱頭 4/7、4/7 の一端を螺合せり。ナット 4/8、4/8' と、把柄 4/9、4/9' の保険 8 と平行状態で 1/5 の柱頭へ接着する。柱頭 4/7 の柱頭 4/7 は、前記 L 型附屬柱頭 4/7 の柱頭 4/7 と、柱材 1/6、柱材 1/6' と取付け柱と同軸の柱頭にて、心材 1/6、柱頭 1/6' が、装着されるとある。このように L 型附屬柱頭 4/7、4/7 にて二又状に構成、柱材 1/6'、1/6" の装着部と柱材 8 の端火光端は、柱長部以下に切込み形状を有し、偏心率を飛躍するものである。

本新案の管件 8 と構成する木枠 1 の両下側部には、E：シボ 5/0 を設止し、鉄製 5/1 を介して四

9

割自在に連結するビニンジ座板 5/2 が、座板 5/3 と成されるものとする。枕て座板 5/3 は、2 回矢印方向へ折れさせ可能で、格納状態と運搬状態も異じて便利である。心材 1/6 の柱頭 8 の上下する K 必要用孔長溝を有する上部板 5/4 を貼付し、尚柱頭 8 および取手 3/0 の他端 3/0 の上下に支障のない該当開孔長溝を有する厚物被覆物 5/5 にて被覆し、座板 5/3 はも薄物被覆物（図示せず）にて被覆して構成されるものである。

木房架は上記の構造であり、その使用に当っては座板 5/3 の上に牌と下うし、柱材 1/6 の柱頭と方接させず過度の圧力を加えず此題で、過渡又はノットを入るモーター 2/4 を始動させれば、主軸 5 の回転によりソクム 6 ハーネス 7、柱頭 8 と回転が伝動され、火光端の偏心量 A による柱材 1/6 の同軸心と中心 K 並至 A の間に凹痕し、この場合、相対する他の柱頭は反対回転が生ずるので、柱頭 8 の燃焼速度をイットの燃焼速度で正一への回転を遮断する事によく燃焼

すれば、丁度面積率6の回転式小糸車と
と逆回転式小糸車を行つて株上寸株下
げの結果と見える結果となる。

株材16の省力化図にて説明の通り、株材
附削面45を装着し、上型附削株和47、47'で
二又状とし株材16と裝削寸削8、株削8
に対する株材附削品45の回転方向位置が自由に
選択できるため、或る程度の回転方向位置との株
材16、16'の選択は、丁度その位置と株削8の
株先端の偏心による位置との株材16、
16'は、オルガメント位置にて平面偏心したか
く側面運動を起さない。放つて株材16、
16'の省力化寸削45は、株削8を中心とした
型附削株和47、47'の株材16、16'が取付
する位置での半立回上の位置の位置に選択可能
となり、樹脂材の偏心による株下寸の効果
が、丸棒の範囲の拡大となる。

付削面は、底板53の端下部が斜面
付削面50、二三種板52と共にジグ板
51を介して底板53と連絡され、これが該

シ部後端と省略された下物と底板53構成(X2
図の右下)にて当接するので、使用状態は終ても
不定ではない。

本考案はもとより下部機械37'の一端と木桿1
の外側を火連鎖し、適当なハンドルを設け、これ
を回動させることによりワイヤー車38'を回動し、
ワイヤー39'をその回動方向へ引張るようとする。
木桿杆42と上下させようにしてしまひ。但しこ
の回動剣と上げ下ろしにわたりワイヤーと手エーンK
、ワイヤー車と鎖道車とそれそれ裏返すのもまいか
。尚而株材16の中间に手足の通所と操作入するこ
とにより、手足の回側は通常の周期的往復を受けて
3のとく株結果の効用の生ずる利用法もある。本
考案装置のモーターと直流電気での使用可能の
点が、手足自動車内使用となる
こととも可能である。

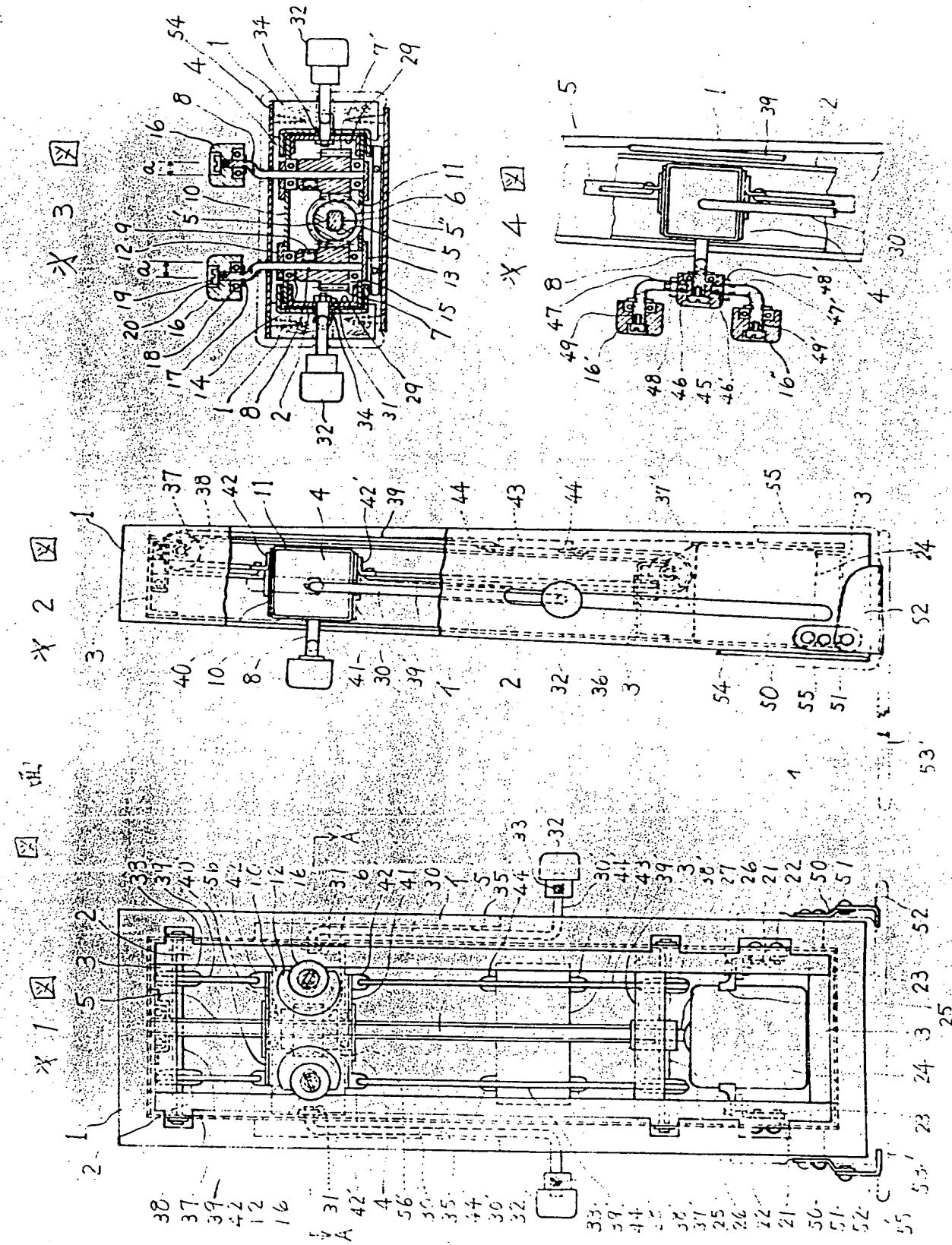
4. 図面の簡要な説明

X1図は木考案の正面図、X2図は同一部以
降の側面図、X3図はX1図のA-A'線横断面圖、
X4図は後説明用部が被断面圖である。

1 2
2 …ガイドレーベル 4 不傳杯 5 王冠
1 6 …様杖 2 4 モード 3 8 38 フィギュア
4 3 …バランス杖 5 様杖 51 銀鍔
5 3 …座板 1 背兜

公開実用 昭和49—

34584





(回)

实用新案登録願

昭和 47 年 6 月 21 日

特許庁長官殿

1 考案の名称

可搬設置式マッサージ機

2 考案者

实用新案登録出願人と同じ

3 実用新案登録出願人

郵便番号 537

住所 大阪市東成区中本五丁目11番5号

氏名

山 一

4 添付書類の目録

(1) 明細書	/ 通
(2) 図面	/ 通
(3) 領書副本	/ 通

47 073764

方
49-34584-01

明細書

1. 考案の名称

可搬設置式マッサージ機

2. 実用新案登録請求の範囲

座板53と主軸51を介して、空椅子形式として背焼れ内にレール2をガイドとして適宜操作で上下させ、バランススクリュー43と昇降桿4を、イヤー車38、38'を介して連結し、上下高さを自由に調整停止できる昇降桿4を組込配備し、該昇降桿4の前面両側に、背焼れ内下部に配備するモーター24の始動にて主軸5を回転させ、前記昇降桿4に装着した回転伝達部材を介して、回転する様材16を装設すると共に、該様材16の着脱可能として様材附属品45を装着、二又状様材の形成を可能と成る可搬設置式マッサージ機。

3. 考案の詳細な説明

本考案は主として人体の背部を、また場合に依つては手足等をマッサージできるもので、且、持ち運び可能で、いろいろの場所で使用できる。

考収されたものである。

従来のマッサージ機は、いろいろの形式の椅子やベット内に組込まれている構造のものが多く、それは容積は大きく、設置面積も広く要求され、また持ち運びにも不便であり価格も高価であつた。そして、その操作部の位置も上下左右には比較的可能な構成になつていて、左右即ち床間離調整については余り配慮がなされていない。

本考収は上記の欠点を除くために考収られたもので、構造簡単で容積・重量も過大にはることなく、従って持ち運びにも至便で、座椅子式設置構造を採用したモーター内蔵の駆動形式のため、外観上の佔縫もよく、いわゆる場所での使用も可能で、コスト面も廉価にできる刺繡を備するものである。さらに本考収は、操作部等の簡便な差替え可能な構成になつていて、操作位置も上下左右と非常に簡単に運ぶことができて、広く採用されることが出来るものである。

次に本考収の詳細を圖面について説明されば、

1は背兜れいを構成する木枠で、丁度内部構成部

柱の周囲を囲む縦長の棒組を形成し、2は該木柱1の内側の上下方向に並行配備したU型ガイドレールであり、上下および中央下寄の3箇所を機械3にて固定し、4は柱状に組立てる。4は昇降柱でガイドレール2に沿って昇降自在の配備となり、両U型ガイドレール2の板間に水平にて位置するもので、ここで該昇降柱4の構成を述べれば、左の運動構成は後述するが、昇降柱4の中央を最上部に木柱1へ山火を繰り回転する主軸5と、上下方向に摺動自在に回転運動される外嵌保持のウオーム6に啮合するムギヤー7、7'が、昇降柱4の柱内空むに配備されるのであるが、両ウオーム6に啮合するムギヤー7、7'の昇降柱4内での組込構成は両者別にしてあるため、この二方に一々以下説明することとする。

次3図に示される如く、ウオーム6はウオーム6に啮合する位置に於て、昇降柱4より突出する探査部の昇降柱4内での適切な位置にて固定されるもので、該探査部は昇降柱4を構成する上下の前板10、後板11に嵌挿され、その

一方を当板 12, 13 にて支持されるラジアルベアリング 14, スラストベアリング 15 を嵌合するもので、且、その先端突出部は軸心に対して A 線に偏心して弧曲形形成されている。該機軸 8 の突出先端部には構成 16 が回転自在に取付けられ、また其の着脱が容易にできる簡単な構造になつてゐる。即ち、構成 16 の位置決め用抜栓止めり;
"17 が機軸 8 に嵌合し、スラストベアリング 18 を嵌装する状態に於て、機軸 8 先端に標記する止め栓;
"19 にて脱落を防止されるものである。
そして構成 16 の機軸 8 の突出先端部に対する嵌合は回転自在の干涉方式で、其外、構成 16 の上部にて止め栓 19 の頭部が軸心回路する如く回路 20 を設け、該回路 20 の上面と止め栓 19 の頭部底面との隙間に隙間が与えられるようになっておる。止め栓 19 の頭部に於ても構成 16 の回転方向は妨げられるものではない。しかるに、該止め栓 19 の頭部より構成 16 の着脱は容易に行なうができない。又スラストベアリング 15, 軸 18 は、構成 16 と併行部の通路に当接せし、若干

の加圧が加えられてもその摩擦抵抗を減少させ効率を有する本である。

乙、前記のオーバルへの回転位置を下記の如くは、並列L型ガイドルーム2の下部通孔に、又か逆L型のモーター取付座21の一端と止めネジ22、ナット23にて取付け。（これ以外金属板成形品の場合又ナット締め栓にて可）該取付座21の他の一端にモーター24の座25を設置、取付けボルト。ナット26にてモーター24を固定せしむ。モーター27と前記斜走主輪5の接着部筒状側錐手28をお互いの間に着け止めて行ふ。二の着止め該筒状側錐手28に螺母；以此外不満（倒伏等）等を行つてよい。しかして、主輪5の断面形状は、円形の一輪向面5'、5"を形成する如く切欠き平面部を作成し、これが外輪包摂するオーバルも円柱形形状とする。從つてモーター27の運動される主輪5の回転せよ。斜面面5'、5"の作用によりオーバル回転が促進され、しかも輪方向の滑動も可能となるものである。オーバルの上下、昇降棒4に於

て ウォーム6の回路を増加抵抗を減少さすため、
主動5に嵌装するスラストベアリング56, 56'を挿入する。

昇降桿4の前板10, 後板11の左右両側、即ち、
□型ガイドレール2の内面に対向する□形側
板29によつて昇降桿4は構組されるものである
が、該□形側板29の約中央に、取手³⁰_{285字}の一端の螺
旋部を挿入しナット31で着止めし、他端30'を
抜ぬけ木桿1の左右側方外にそれぞれ突出させ。
把手32を止ネジ33にて他端30'の先端に固
着する。又把手32を左右逆か両手に持て上下
させる場合、把手30の上下するに必要な溝切欠
き34を□型ガイドレール2の側面に、また溝空
間35より側方側孔溝36を木桿1の両側面に
開設する。

一方□型ガイドレール2の上方および中央下寄り
の横機3の下方に、横軸37, 37'を横架、而
側溝所にワイヤー車38, 38'を回動自在に嵌着
、其の周囲に凹溝を設けワイヤー39, 39'が導
入周動する如くし、横軸37, 37'とワイヤー車3

8. 38' の側面方向移動の防止は、それと並行止
めリングを要所に設置して行う。ワイヤー 39,
39'の一端は昇降枠 4 の前板 10, 後板 11 を上
下へつなぐ上板 40, 下板 41 の両側邊所に、固
着されワイヤー掛金 42, 42' がそれと結止
されるものであるが、この昇降枠が着止する該
ワイヤー掛金 42, 42' よりワイヤー車 38, 38'
を介して間接動の上蓋側に回る巨りがそれと並行
巨離にわたる位置に、バランスス 43 をそれと固着
されワイヤー取付金 44, 44' がワイヤー 39
. 39' の弛緩を結止することにより配備する。か
くすることにより、昇降枠 4 とバランスス 43 と
がワイヤー 39, 39' よりワイヤー車 38, 38'
を介して連絡されるので、昇降枠の上下移動に
よりバランスス 43 はその反対方向に上下するこ
とになり、常に壁面のバランススを保ち昇降枠が自
由で降下することを防止し、昇降枠を上下に移
動させために、把手 32 を操作する場合への配
合は常に一定に保る効果を有す。

尚、本考案の構造は、前記様式 1 の頭部の凹所

20Kmの止めネジ、9を取り外し、螺旋16の張りに成る圖に示される如く、螺旋8の突出先端(向軸心に対する比の偏心している先端)に、斜め附屬部45を接着装置できることと付言しておいた心事がある。該螺旋附屬部45の構造と接着剤類は、螺旋16の大きさと殆ど同じであるが、唯、その周辺往復村内位置に螺孔46、46'を孔設し、L型附屬螺旋47、47'の一端を螺合せ、47+48、48'で、他端49、49'が螺旋8と平行安設状となる状態にて接着するものとする。しかしてL型附屬螺旋47、47'の他端49、49'には、前記と表よりに螺旋8の突出先端に螺旋16、16'を取付けられと同様の構成にて、以降"螺旋16"、"16'"が表示されるものである。このようにはL型附屬螺旋47、47'にて二叉状に構成、螺旋16"、16'"の接着部を螺旋8の突出先端に容易に構成し得る構造を有し、螺旋8の運動を遮断するものである。

本新案の背筋ハイを構成する木栓1の両下側部には、ビンジねじ50と鎖止し鉄軸51を介して回

並に自縦に運搬するヒンジ座板 52 が、座板 53 に取付けられた背壳ガイドと合わせて、座椅子形式に構成されるものとする。従って座板 53 は ± 2 度天印方向に折れ式が可能で、格納や持ち運びに場所も費さず便利である。しかし本体背面には振袖 8 の上下する必要性開孔長溝を有する上面板 54 を貼付し、振袖 8 および把手 30 の他端 3C' の上下に当該の開孔長溝を有する薄物被覆物 55 にて被覆し、座板 53 にも薄物被覆物（図示せず）にて被覆して構成されるものである。

本考案は上記の構造であり、次の使用に当つては座板 53 の上に腰を下ろし、振袖 16 に背中を当接させて適度の圧力を加える状態で、電源スイッチを入れモーター 24 を始動させれば、主軸 5 の回転によりモーター 24、リブースギヤー 7、振袖 8 と回転が伝動し、左の突出先端の偏心盤 a による振袖 16 は同偏心を中心とする半径 a の周上を回転し、この場合、相対する他の振袖は反対回転が生ずるものであり、またこの際、電源スイッチの切換えでモーターの回転を逆回転するよう仕組み

すれば、丁度回転数16の回転も泡水泡水のままで
とは運回転とは、指圧によつて行ふ踏上げ操作下
げの効果を与える結果にはる。

探材16の替りに改めて説明の通り、探材
附屬品45を装着、L型附屬探査47、47'にて
二又状とし探材16'、16"を装備すれば、探査8
Kに対する探査附屬品45の回転方向位置が自由に
選択できるため、或いは任意の回転方向位置での探
査16'、16"の運動は、丁度その位置で探査8の
突出先端の偏心による回転が強調され、探材16'
、16"はオルガリカルの位置に於て平衡運動(たゞ
回転運動)を起すものである。従つて探材16'
、16"の頂点位置(3位置)は、探査8を中心とする
L型附屬探査47、47'による探査16'、16"の取付
位置が決定する。半空洞上の位置、位置は必ず可能
となり、両探査の位置に於て踏上げ操作下げの効果
を与える範囲の拡大となる。

併則時に於て、壁部53は踏下に歯かか背筋か
くはヒンジ移50、ヒンジ壁移52とヒンジ銀査
51を介して壁移53と接続され、しかも該ヒン

11

三部後端で背壳ガイの下端と座板との接端（次2
図の右下）にて当接するので、使用状態に於ても
不密着ではない。

本考案はもとより「下部傾斜37°」の一端を本杆1
の外側方に延長し、適当なハンドルを設け、これ
を回転させることによりマイヤー車38°を回転し、
マイヤー39°を逆の側面に向か引張るようにして、
床脚杆を上下させられてもよい。但しこ
の回転距離を上げるためにマイヤーをエーエーK
、マイヤー車を鏡面車にされれば走行するものとい
。尚両脚杆16の間に手足の窓ガラスを挿入するこ
とに付り、手足の側面は窓ガラスの周期的圧迫を受けるので、擦れ果の効用の生ずる利用法もある。本
考案装置のモーターを直流電気での使用可能の、
低ボルト用モーターに取替え自動車内使用と多用
することも可能である。

4. 図面の簡単な説明

次1図は本考案の正面図、次2図は同一部切次
3側面図、次3図は次1図のA-A'線横断面図。
次4図は同説明用要部縦断側面図である。

2 … フライドル - ル. 4 … 罩降杆. 5 … 主軸.
16 … 構材. 24 … モーター. 38, 38' … ハンド車.
43 … バンシヤ機. 45 … 構材附輪. 51 … 鉄軸
53 … 座板. 1 … 断続孔.

実用新案登録水銀入 中山 三一

49-34584-13

圖

図 1 図

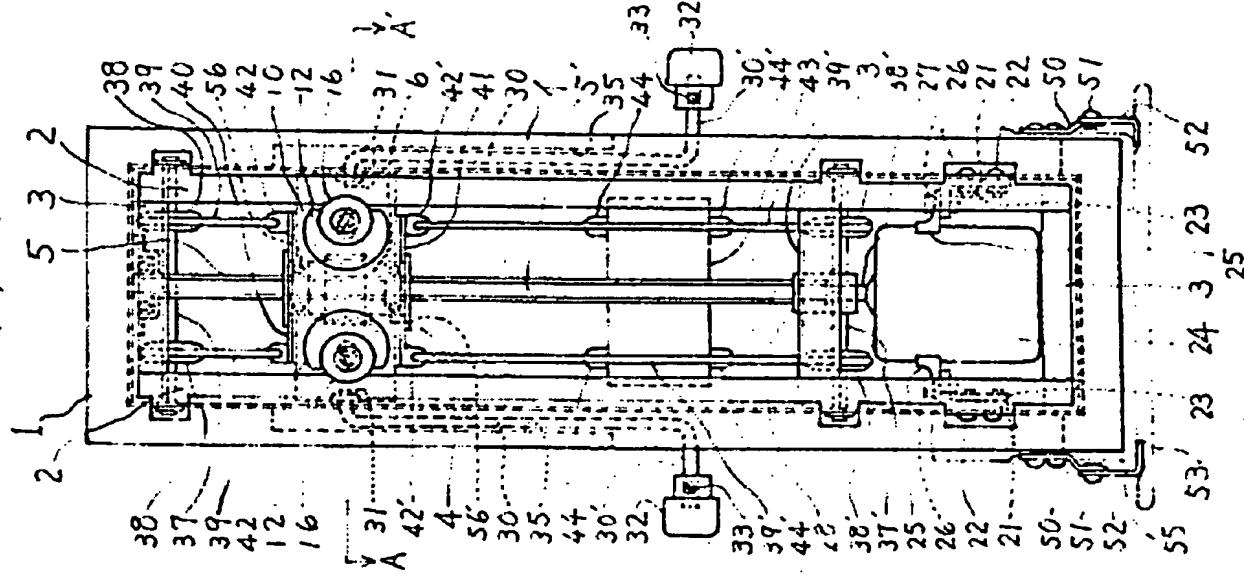


図 2 図

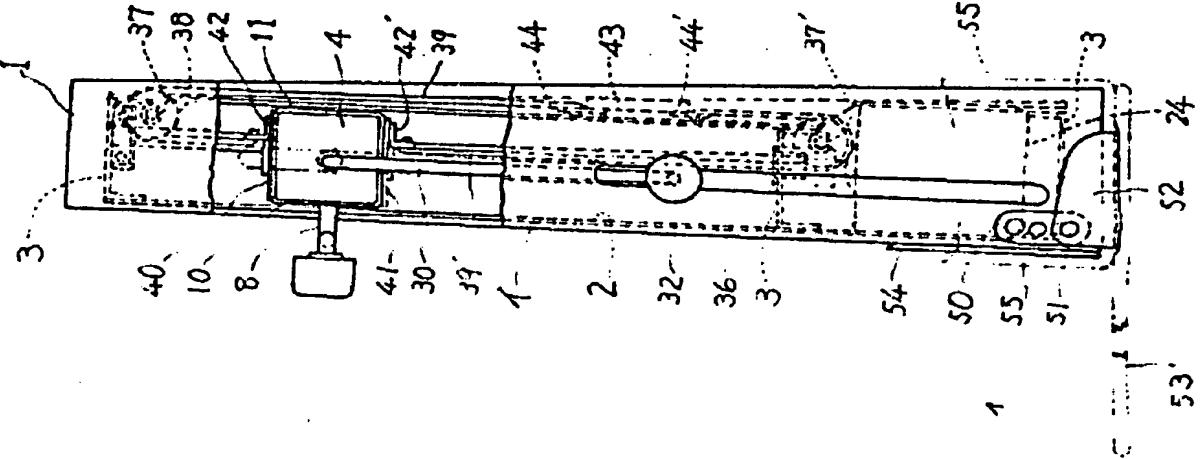


図 3 図

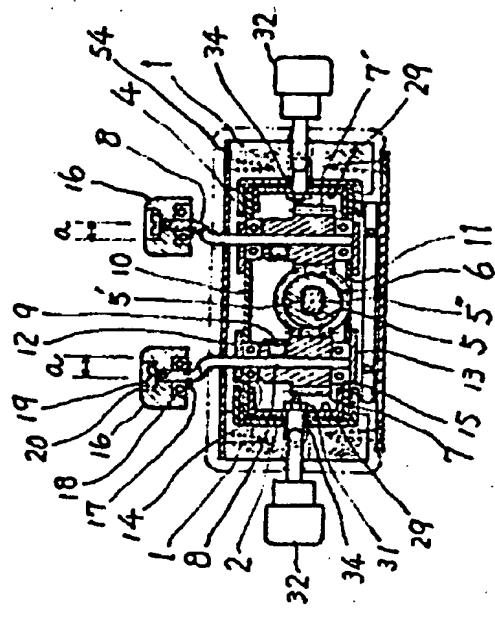
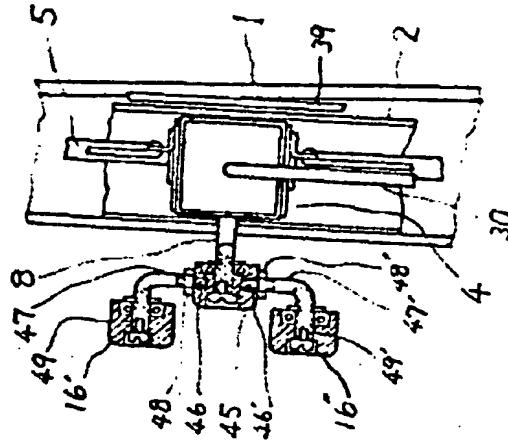


図 4 図



資料番号
大日本
49-34584-14

49-34584-14